

## (附) 野菜花き品種の推奨品種への一括編入

### 1) いちご品種「女峰」

#### (1) 来歴

- ①育成：栃木県農業試験場
- ②「ダナー×（はるのか×ダナー）」から得た「系210」を母親、「麗紅」を父親として昭和54年交配
- ③昭和55年「栃木2号」として選抜
- ④昭和59年「女峰」と命名、昭和60年種苗登録

#### (2) 特性の概要

- ①ランナーの発生が優れ、草勢が強く、栽培が容易である。
- ②休眠は麗紅と同程度に浅い。
- ③花芽分化期は麗紅、宝交早生と同じかやや早い。
- ④開花は宝交早生と同程度に早く、成熟日数は約40日である（11月開花の場合）。
- ⑤早期収量が多く、全収量も株当たり400g以上となる。
- ⑥果実は乱形果が少なく、果色は濃紅色で果皮はかたい。
- ⑦糖度、酸度、香りとも高く、食味は良好である。

#### (3) 栽培上の留意点

- ①促成栽培に適した品種であり、5℃以下の低温にあてないで保温開始する。
- ②炭そ病、輪斑病、アブラムシ、ハダニの発生が多いため、防除を徹底する。
- ③花粉が少なく、稔性が弱いため温度管理に留意するとともに、みつばちの利用を図る。

#### (4) 適応地域（作型）

沿岸中南部、県南部、（促成）

### 2) えだまめ「にしきみどり」

#### (1) 来歴

- ①軽米町在来より純系選抜

#### (2) 特性の概要

- ①「夕鶴」と同熟期で晩生種に属する。稔実莢数は多く「夕鶴」より5～8%多収である。

② 莢は濃緑色で外観品質は良く、食味も優れる。

③ 主莖の長さは「夕鶴」並であるが、耐倒伏性は強に属する。

(3) 栽培上の留意点

① 大粒種で出芽日数を多く要することから、は種適期を守る。

② 強莖で倒伏に強いが、密播では有効莢数が減少する。10a当り5,000本の1本立てとする。

③ 比較的、莢の黄化が早いので、収穫期を失しないようにする。

(4) 適応地域（作型）

県下全域

3) えだまめ「緑深」

(1) 来歴

① 玉山村在来より純系選抜

(2) 特性の概要

① 「ふくら」と同熟期中生種に属する。

② 莖頂は「ふくら」より長いが、耐倒伏性は強い。

③ 「ふくら」より10%程度は多収である。

④ 莢の色は農緑色で品質も良く、食味も糖含有量が高く優れている。

(3) 栽培上の留意点

① 「ふくら」より耐倒伏性が強いことから、栽植密度および施肥量は「ふくら」並とする。

② 「ふくら」と同様、ビニールハウスによる早出し栽培にも適応できる。

(4) 適応地域（作型）

県下全域

4) えだまめ「緑翠」

(1) 来歴

① 「ふくら」の放射線突然変異

② 平成2年品種登録

(2) 特性の概要

① 熟期は「ふくら」と「夕鶴」の間で中生の晩に属する。

②茎長は「ふくら」より3～5cm長いが、耐倒伏性は強い。

③節数、分枝数も多く、莢数、莢重とも「ふくら」より大きく多収で品質、食味も優れる。

④種子は褐色で「ふくら」より粒が大きく偏球である。

(3)栽培上の留意点

①「ふくら」と「夕鶴」の中間に収穫できる。また、収穫は莢が十分に肥大充実したあとに行う。

②栽培密度は「ふくら」並とし、基肥は10a当り窒素成分4～5kg程度とする。

(4)適応地域（作型）

県下全域

5) えだまめ「緑良」

(1)来歴

①岩浸豆A3から純系選抜

②平成2年品種登録

(2)特性の概要

①熟期は「錦秋」より1週間程度遅い極晩生種。

②茎長は「錦秋」より長いが、耐倒伏性は強い。

③生育量は大きい。

④収量は「錦秋」より5～7%多収である。

⑤濃緑色の莢で外観品質が優れ、また糖含量も極めて高く、食味も優れる。

⑥莢の黄化は極めて遅い。

(3)栽培上の留意点

①主茎長は長く、生育量は大きいので密植は避け、晩生種の基準よりやや広めの10a当り、5,000～5,500本程度とする。

②通常栽培では、9月中旬以降の収穫となるので、降霜前に収穫できる作型とする。

③他品種よりやや小莢であることから、莢の充実肥大に努める。

(4)適応地域（作型）

県中南部および県北平坦部

## 6) えだまめ「香乙女」

### (1) 来歴

盛岡市在来より純系選抜

### (2) 特性の概要

- ① 熟期は「夕鶴」並の晩生種に属する「茶豆」である。
- ② 莖長は「夕鶴」より長く、「盆茶豆」並であるが、耐倒伏性は強い。
- ③ 収穫は高く、莢色は緑色で外観品種は優る。
- ④ 糖含量は極めて高く、芳香を有し、そのため食味の評価は特に優れる。

### (3) 栽培上の留意点

- ① 莖長は長く、生育の旺盛な品種なので、栽植密度10a当り5,000～5,500本程度とする。
- ② やや小莢であるため、莢を充分肥大、充実させてから収穫する。

### (4) 適応地域（作型）

県下全域

## 7) りんどう「マシリィ」

### (1) 来歴

- ① 育成：昭和63年岩手園試
- ② 育成方法：北海道産選抜系×福島産選抜系のF<sub>1</sub>
- ③ 登録：登録申請中

### (2) 特性の概要

- ① 開花期は、北上市付近の露地で7月中～下旬
- ② 草丈は90cm前後で、莖は緑色。
- ③ 株立本数は実生3年株で5本前後、側枝の発生はない。
- ④ 花色は青紫色である。

### (3) 栽培の留意点

- ① 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。
- ② 露地および半促成いずれの栽培においても、上位節間が伸びやすい傾向があるので、特に半促成栽培における保温管理には注意する。

### (4) 適応地域（作型）

県下全域（露地普通栽培、無加温ハウス栽培）

## 8) りんどう「アルビレオ」

### (1) 来歴

- ①育成：昭和63年岩手園試
- ②育成方法：九州産選抜系×福島産選抜系F<sub>1</sub>
- ③登録：第2553号（平成2年12月5日）

### (2) 特性の概要

- ①開花期は北上市付近の露地で10月中旬。
- ②草丈は140cm前後で、茎は太く、黒紫色。
- ③株立ち本数は実生3年株で6本前後、全体に側枝が発生する。
- ④花色は鮮青紫色で、花冠先端は外反転する。

### (3) 栽培上の留意点

- ①一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。
- ②極晩生種であるため、高標高地では開花に到らない場合があるので注意する。
- ③草勢が弱いので、多肥にしない。
- ④低温により葉身が紫紅色に変化するので、地域によっては簡易な霜よけを行う。

### (4) 適応地域（作型）

県下全域（露地普通栽培）

## 9) りんどう「ホモイ」

### (1) 来歴

- ①育成：昭和63年岩手園試
- ②育成方法：北海道産選抜系×長野選抜系のF<sub>1</sub>
- ③登録：登録申請中

### (2) 特性の概要

- ①開花期は北上市付近の露地で8月中下旬～9月上旬。
- ②草丈は115cm前後で、茎は淡緑色。
- ③葉は幅が狭く、着生角度は大きい。
- ④花色は黄白色である。

### (3) 栽培上の留意点

- ①一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。
- ②10%程度青色花の個体が発生するが、定植時に芽が緑色の苗を選抜することで、区別可能である。芽の赤紫色の苗は青色花の個体である。

③草勢が弱いので、多肥にしない。

(4)適応地域(作型)

県下全域(露地普通栽培)

10)きゅうり「トップグリーン」

(1)来歴

①育成はときわ研究場

②昭和62年発表

③南極2号の改良種×「光促成×(北極2号×高嶺)」の一代雑種

(2)特性の概要

①主枝着果率70%以上

②草姿は分枝性、伸長性に優れる。

③葉はやや角型で中葉

④果実の肥大良好

⑤食味良好

(3)栽培上の留意点

①草勢が強いので、一番果の着果節位は、5節程度とする。

②中段の側枝の発生、伸長が旺盛なので、1~2節ピンチを基本とした早めの整枝を行う。

③抑制作型の場合、主枝は25節程度でピンチし、採光性を高める。

(4)適応地域(作型)

県下全域(ハウス半促成、抑制作型)

11)とまと「ハウス桃太郎」

(1)来歴

①育成:タキイ種苗

②昭和63年品種発表

(2)特性の概要

①ハウス栽培向き完熟トマトで熟期は極早生。

②吸肥力は低く、草姿は中程度、葉は小型で、節間は桃太郎より長い。

③TMV、斑点病、半身萎ちょう病、萎ちょう病、ネコブセンチュウに複合抵抗性

をもつ。

(3)栽培上の留意点

- ①低温乾燥下での育苗で、低段花房にチャック果が発生しやすいので、育苗中の温度管理、水管理には充分留意する。
- ②桃太郎に比較し、吸肥力が低いので元肥は多めに施用する。
- ③TMV抵抗性は Tm2<sup>a</sup>であるので、接木栽培を行う場合、台木品種も同型の抵抗性因子をもつものを用いる。

(4)適応地域（作型）

県下全域（ハウス半促成作型）

1 2) レタス「ステディ」

(1)来歴

- ①育成：鶴田種苗
- ②昭和57年発表
- ③カルマー系の改良種

(2)特性の概要

- ①カルマー系の中では晩抽性で、耐暑性があり比較的葉柄部の突出が少ない。
- ②熟期は「サクラメント」や「マイレタス」と同じか、1～2日の遅れとなる。
- ③球形は偏円で、球重は500g前後となる。
- ④球色は「マイレタス」と「さくらめんと」の中間で、やや濃い。

(3)栽培上の留意点

- ①高温期は障害球が多発するので使用を避ける。
- ②施肥量は、少肥条件では小玉傾向となるので注意する。
- ③草勢がやや弱いので株数確保（8,500株/10a）をはかる。

(4)適応地域（作型）

県中北部

平坦地：4月下旬播　　高冷地：5月上中純播　　高標高地：5月中下旬播

1 3) キャベツ「YR青春」

(1)来歴

- ①育成：渡辺採種場

②昭和59年発表

③「ウイスコンシン×川崎系」の後代固定系と「中野早春×黒葉サクセッション」の後代固定系の組合せ。

(2)特性の概要

①偏円型キャベツ。

②早生種。は種後90から100日で収穫となる。

③春系なので葉質は柔らかく、食味が良好。

④萎黄病抵抗性。

(3)栽培上の留意点

①高温結球性は劣るので、地帯別は種適期を順守する。

②降霜により凍害を受けやすいので収穫期が降霜期間にあたらないようは種晩限を決定する。

③若苗定植により初期生育を順調にする。

④コナガ対策は適期散布と系統の異なる薬剤のローテーション散布で防除の徹底をはかる。

(4)適応地域(作型)

県下全域

平坦地：早春まき初夏どり、初夏まき秋どり

高冷地：春まき夏どり、初夏まき秋どり

14) たまねぎ「ラッキー」

(1)来歴

①育成：渡辺採種場

②母親として「奥州」から系統選抜された晩萌、晩抽、べと病抵抗性の雄性不稔系統父親として「泉州黄」の晩萌、多収系統の交配組合せ。

③昭和47年発表

(2)特性の概要

①収穫期は「泉州中甲高黄」と同程度の晩生種である。

②草姿はやや開帳性、生育旺盛で、越冬歩合高く、栽培しやすい。

③一球重300g程度の甲高豊円球で、10a当り収量5～6tは期待できる。

④玉揃い、色沢が優れ、品質良好である。

⑤糖含量が高く、生食としての食味が優れている。

⑥萌芽が遅く、吊り玉貯蔵で長期貯蔵が可能である。

## 15) ほうれんそう「リード」

### (1) 来歴

- ① 育成：サカタのタネ
- ② 昭和59年発表
- ③ 「ピロフレ」×「メダニア」後代と「兎城」から選抜した系統との一代雑種

### (2) 特性の概要

- ① べと病（レース1，3）抵抗性品種
- ② 耐暑、耐寒性にすぐれ、晩夏～秋まきに好適している。
- ③ 草勢が強く、草姿は半立性で、「ソロモン」よりがっちり育つ。葉色は濃い。
- ④ 抽台性は「ソロモン」並で、やや早い。

### (3) 栽培上の留意点

- ① 温暖・長日条件で抽苔しやすいので、8月中旬以降のは種とする。
- ② 耐寒性は「ソロモン」よりはやや劣るので、秋おそくなつてのは種は避ける。
- ③ 9月の長雨や台風を経過する作期なので、ハウス内への雨の浸入を防ぐ。

### (4) 適応地域

県下全域（8月中旬～9月上旬は種作型）

## 16) アスパラガス「ウェルカム」

### (1) 来歴

- ① 育成：アメリカでF<sub>1</sub>として交配育成
- ② 昭和62年品種発表

### (2) 特性の概要

- ① メリーワシントン 500Wに比較して、早生で初期収量が高い。
- ② 草勢が強く、若茎の頭部のしまりが良好。
- ③ 濃緑色

### (3) 栽培上の留意点

- ① 初期生育が旺盛で、立茎数も多いので、過繁茂となりやすい。このため誘引は必ず行い、併せて定期的な薬剤散布を励行する。
- ② 定植2年目の収穫は10日間程度とし、その後も立茎・生育が旺盛な場合は、さらに間引き程度の夏秋どりを行う。

### (4) 適応地域（作型）

県下全域（露地普通、ハウス半促成作型）

## 17) ブロッコリー「ハイツ」

### (1) 来歴

- ① 育成：タキイ種苗
- ② 昭和63年発表
- ③ 「ウォルサム29」の後代と「ドシコ」の交雑後代同士の一世代雑種

### (2) 特性の概要

- ① 生育日数が85日程度の、早生種である。
- ② 草勢はやや強く、側枝の発生が多く、草姿はやや開く。
- ③ 花蕾はやや大きく形良く、しまりがある。花蕾内の小花はこまかく、揃いが極良であるが、色沢はやや淡い。
- ④ 高温期でもリーフィーや不整形花蕾の発生が少ない。

### (3) 栽培上の留意点

- ① 4～5月はハウス内で育苗する。6月以降もできるだけ雨よけハウス内で育苗する。
- ② 定植時の苗齢は5枚程度の若苗とし、活着を良くする。
- ③ 出蕾前の病虫害防除を徹底する。
- ④ 花蕾発育が急激なので、適期収穫に努める。

### (4) 適応地域（作型）

県中北部 平坦地：4月上～下旬播き 高冷地：4月上～5月中旬播き

## 18) ブロッコリー「緑嶺」

### (1) 来歴

- ① 育成：サカタのタネ
- ② 昭和55年発表
- ③ 「ウォルサム29」及び「イタリアングリーン」の選抜後代同士の一世代雑種

### (2) 特性の概要

- ① 生育日数は92日程度の、中早生種である。
- ② 草勢が強く、側枝の発生は多いが、草姿がやや閉じる。
- ③ 花蕾はやや大きく、形良く、しまりがある。花蕾内の小花はこまかく、色沢は緑色である。
- ④ 高温期でもリーフィーや不整形花蕾の発生が少ない。

### (3) 栽培上の留意点

- ① 4～5月はハウス内で育苗する。6月以降もできるだけ雨よけハウス内で育苗する。
- ② 定植時の苗齢は5枚程度の若苗とし、活着を良くする。
- ③ 出蕾前の病虫害防除を徹底する。
- ④ 花蕾発育が急激なので、適期収穫に努める。

(4) 適応地域 (作型)

県中北部 平坦地：4月中～5月下旬播き 高冷地：4月下～6月中旬播き

## 19) 短根にんじん「向陽二号」

(1) 来歴

- ① 育成：タキイ種苗
- ② 昭和58年発表
- ③ 「大型三寸雄性不稔系」と「黒田5寸系」との一代雑種

(2) 特性の概要

- ① やや晩抽性。
- ② 葉勢が強く、根は吸い込み型である。
- ③ 根形は肩に張りがあって円筒形。根長は18～19cm、根色は鮮紅色で、肌質短が優れている。

(3) 栽培上の留意点

- ① 収穫適期はは種後110日前後であるが、穫り遅れによる裂根発生に注意する。
- ② 抽台性に対する安全性は十分とはいえないので、春早い作型ではトンネルやべたがけを必ず実施する。

(4) 適応地域 (作型)

県下全域 ① 早春まきトンネル作型 ② 4月下旬～6月下旬まき露地作型

## 20) ストック「雪波」

(1) 来歴

- ① 育成：昭和60年 黒川 浩 氏
- ② 「ホワイトゴッテス」×「富士の輝」より選抜・育成
- ③ 平成2年種苗登録 (申請時は「高波2号」)

(2) 特性の概要

- ①茎は太く、花卉の厚い白色有毛種。
- ②開花期は、高波より10日前後遅い11月上旬。
- (3)栽培上の留意点
  - ①草姿がやや大きくなりやすいので、多肥をさける。
- (4)適応地域（作型）
  - 県下全域（ハウス栽培）

## 21) ストック「ラブミーチェリー」

- (1)来歴
  - ①育成：昭和62年タキイ種苗
  - ②「初桜」×「秋のあかね」より選抜・育成
  - ③平成2年登録内定
- (3)栽培上の留意点
- (2)特性の概要
  - ①茎は太く、花卉は花芯部が僅かに桃色となる有毛種。
  - ②開花期は、秋の夢とほぼ同じ。
- (4)適応地域（作型）
  - 県下全域（ハウス栽培）

## 22) スターチス・シヌアータ「エキセレントライトブルー」

- (1)来歴
  - ①輸入選抜系
- (2)特性の概要
  - ①淡い青色で市場性高い。草勢が強く、花茎や翼がやや大きい。
  - ②中早生種であり、収穫本数がやや少ない。
- (3)栽培上の留意点
  - ①各作型に向く品種であるが、早期収量がやや少ないため、は種期を遅れないようにする。
  - ②翼がやや大きいため、水分、施肥過剰にならないようにする。
- (4)適応地域（作型）
  - 県下全域（促成、半促成、雨よけ栽培）

## 23) スターチス・シヌアータ「エキセレントパープル」

### (1) 来歴

#### ① 輸入選抜系

### (2) 特性の概要

① 赤味を帯びた紫色でがくの色は揃っている。草勢は強いが、茎の太さが中程度である。

② 極早生種であり、収穫本数は多い。

### (3) 栽培上の留意点

① 各作型に向く品種であるが、茎の太さが細いため肥培管理に留意する。

### (4) 適応地域（作型）

県下全域（促成、半促成、雨よけ栽培）

## 24) スターチス・シヌアータ「ソピア」

### (1) 来歴

① 育成：追出町俊一 阿部武夫

② 育成方法：自然交雑種からの系統選抜

### (2) 特性の概要

① 市場性の高い桃色の中間色が高率に発生する。がくの色幅は紫から白までであり多様性に富んでいる。

② 極早生種で多収であるが、草勢の弱い株が低率ながら発生する。

### (3) 栽培上の留意点

① 各作型に向く作型であるが、草勢がやや弱いため水分、肥培管理に留意する。

② 株によっては、灰色かび病に極端に弱いものもあり抜き取り処分する。

### (4) 適応地域（作型）

県下全域（促成、半促成、雨よけ栽培）

## 25) スターチス・シヌアータ「スーパーローズ」

### (1) 来歴

① 輸入選抜系

### (2) 特性の概要

①濃桃色の発生割合が多角、草勢が強い。

②中早生種でありやや収穫本数が少ない。

(3)栽培上の留意点

①各作型に向く品種であるが、早期収量がやや少ないため、は種期を遅れないようにする。

②翼がやや大きいため水分、施肥過剰にならないようにする。

(4)適応地域(作型)

県下全域(促成、半促成、雨よけ栽培)

26) スターチス・シヌアータ「No.S-16」

(1)来歴

①輸入選抜系

(2)特性の概要

①がくの色が白色であり、草勢が強い。

②極早生種で、収穫本数はやや少ない。

(3)栽培上の留意点

①各作型に向く品種であるが、灰色かび病にかかりやすいため通風をよくし、防除を徹底する。

(4)適応地域(作型)

県下全域(促成、半促成、雨よけ栽培)

27) ゆり「コネチカットキング」

(1)来歴

①育成：1967年 米国 昭和57年日本に導入

(2)特性の概要

①スカシユリ系、中生種

②明黄色で中心部がやや刻、花卉に斑点がない。

③小球、多花性であるが、草丈はやや低い。

(3)栽培上の留意点

①高温期などに葉焼けが発生しやすい。

②抑制栽培では草丈が伸びにくく、ブラインドもやや増加する。

#### (4)適応地域（作型）

県下全域

- ①秋植え、季咲栽培
- ②冷蔵6月植え抑制栽培

### 28) ゆり「紅の舞」

#### (1)来歴

- ①育成：昭和57年
- ②鈴木和太郎

#### (2)特性の概要

- ①スカシユリ系、中晩生種
- ②濃い橙赤色で花卉の幅が狭く、斑点が多い。
- ③草丈は非常に高く抑制栽培に向くが、花数がやや少ない。

#### (3)栽培上の留意点

- ①抑制栽培では、大きめの球根を用いる。

#### (4)適応地域（作型）

県下全域

- ①秋植え、季咲栽培
- ②冷蔵6～8月植え抑制栽培

### 29) ゆり「カサブランカ」

#### (1)来歴

#### (2)特性の概要

- ①オリエンタルハイブリッド、晩生
- ②純白色、大輪で斑点がない。
- ③草丈は高いが、茎はやや弱い。
- ④花数は少なく、横向きに咲く。

#### (3)栽培上の留意点

- ①茎が弱いので窒素肥料を多くしない。

#### (4)適応地域（作型）

県下全域

- ①秋植え、季咲栽培
- ②冷蔵6～7月植え抑制栽培

### 30) ゆり「ル・レーブ」

#### (1)来歴

#### (2)特性の概要

- ①オリエンタルハイブリッド、中生
- ②ピンク色の大輪で、花卉が反転しない。斑点は中程度。
- ③草丈は中程度で、花は斜め上向きとなる。

#### (3)栽培上の留意点

#### (4)適応地域（作型）

県下全域

- ①秋植え、季咲栽培
- ②冷蔵6～7月植え抑制栽培

### 31) ゆり「スターゲイザー」

#### (1)来歴

#### (2)特性の概要

- ①オリエンタルハイブリッド、晩生
- ②濃赤色で花卉のふちが白く抜ける。斑点は多い。
- ③草丈は中程度で、花は上向きに咲く。

#### (3)栽培上の留意点

- ①高温期などに葉焼けが発生しやすい。

#### (4)適応地域（作型）

県下全域

- ①秋植え、季咲栽培
- ②冷蔵6月植え抑制栽培